

道徳の時間で活用する
～家族愛、家庭生活の充実～

山陽小野田市立高千帆中学校 吉村 美貴子

1 本場面におけるポイント

- 祖父母から受け継がれているいのちのつながりを認識する。

「いのちのまつり」（作:草場一壽 絵:平安座資尚 サンマーク出版）の一場面を見せて視覚で捉えさせる。

- 祖父母の心情について考える。

1時間を通して活用する教材として「私たちの道徳」を生かし、今までできていたことができなくなっていく高齢者の気持ちについて考えさせる。

- 人が明るい気持ちで生きるために必要なことを考える。

人は、人から必要とされていることを実感できることで明るい気持ちになれることに気付かせる。

2 授業の実際

1 主題名 「一冊のノート」

（「私たちの道徳」 P186～P193）

2 ねらい

祖父母とのいのちのつながりを実感し、祖父母への敬愛の念を深め、家族の一員として望ましい言動をとろうとする態度を育てる。

3 展開

（1）導入 「一冊のノート」のおおまかなあらすじをとらえさせ、本時に考える内容を提示する。

教師：「僕や弟は困った顔をしています。それは、おばあちゃんが物を片付けた場所を忘れて、季節外れの服装をしたりするからです。それでは、おばあちゃんはどんな気持ちでいるのでしょうか。今日は、おじいちゃんやおばあちゃんの気持ちについて考えます。」

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「私たちの道徳」に掲載されている挿絵を黒板に掲示しながら、登場人物や出来事について確認した後、本時に考える内容を提示し、教師が全文を読む。

（2）展開 「にじんだインク」が語るおばあちゃんの気持ちを考えよう。

教師：「インクがにじんだこととして、どんな理由が考えられますか。」

生徒A：「書こうと思った内容を忘れてしまったからだと思います。」

生徒B：「涙が出てきて言葉にできなかったからだと思います。」

教師：「『にじんだインク』が語るおばあちゃんの気持ちを考えましょう。」

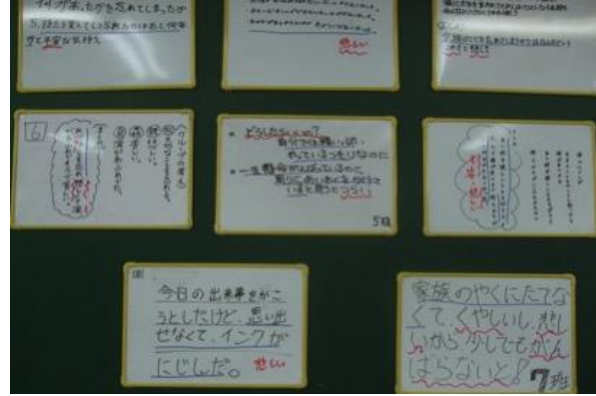
生徒の活動 ① 自分の考えをワークシートに記入する。

② グループで話し合う（3人～4人のグループ 七つの班）。

③ 各グループの考えを全体で発表する。



〈グループ学習の様子〉



〈各グループからの意見〉

〈切り返しの発問〉

教師：「おばあちゃんは、悲しい・つらい・すまない・とまどい・悔しい等、暗い気持ちでいます。でも、おばあちゃんが暗い気持ちにならずに明るい気持ちで過ごせる方法があります。それはどんなことでしょうか。」

生徒C：「おばあちゃんが失敗することがあってもせめないことです。」

生徒D：「おばあちゃんが家族のために何かをしてくれたときには、ありがとうと言うことです。」

生徒E：「おばあちゃんと一緒に家の仕事をする事です。」

教師：「人から必要とされていると感じることで明るい気持ちになります。必要とされていると実感できるのがあるがとうの言葉です。」

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「一冊のノート」に掲載されているおばあちゃんの後ろ姿の挿絵を黒板に掲示し、おばあちゃんの内気持ちを想像させる。

(3) 終末 高齢者の気持ちを考える補助資料となる絵本を提示する。

〈補助資料として用いた絵本〉

「おじいちゃんの大げな一日」

作：重松 清 絵：はまのゆか 幻冬舎

「いのちのバトンを受けとって」

写真・文：國森康弘 農文協

「おばあちゃんといつもいっしょ」

作：池見宏子 絵：池見民子 岩崎書店



3 実践を振り返って

最後に『おじいちゃんやおばあちゃんについて思うこと』というテーマで、生徒に感想を書かせた。次は、生徒の感想の一部である。「僕にも祖母がいます。自分の物を捨てられることがあっても、優しくしようと思います。そして、ありがとうを言う回数を増やしていこうと思います。おばあちゃんが笑顔でいられるようにしていきたいです。」

この「一冊のノート」という資料を通して、生徒たちは、祖父母のみならず、家族や地域の方、友達へのこれまでの自分の接し方をあらためて見直していた。